

楽典Ⅱ

授業形態	講義	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員		実務内容	
授業内容	楽典Ⅰ及び和声の復習と発展		
到達目標	楽典Ⅰ及び和声で学んだ事を発展させより高度な音楽理論を身に着ける事を目標とする。		
教材	楽典 理論と実習(音楽之友社) プリント教材		

年間授業計画

1 和声法Ⅱを学ぶにあたって	37 -	73 -	109 -
2 基本位置と転回位置(低音位)	38 -	74 -	110 -
3 声部と配置	39 -	75 -	111 -
4 課題実習	40 -	76 -	112 -
5 課題実習	41 -	77 -	113 -
6 基本位置3和音の標準連結	42 -	78 -	114 -
7 課題実習	43 -	79 -	115 -
8 課題実習	44 -	80 -	116 -
9 課題実習	45 -	81 -	117 -
10 II → Vの連結	46 -	82 -	118 -
11 課題実習	47 -	83 -	119 -
12 V → VIの連結	48 -	84 -	120 -
13 課題実習	49 -	85 -	121 -
14 カデンツの結合と終止形	50 -	86 -	122 -
15 課題実習	51 -	87 -	123 -
16 課題実習	52 -	88 -	124 -
17 授業内試験	53 -	89 -	125 -
18 前期まとめ	54 -	90 -	126 -
19 3和音の第1転回形	55 -	91 -	127 -
20 課題実習	56 -	92 -	128 -
21 課題実習	57 -	93 -	129 -
22 課題実習	58 -	94 -	130 -
23 1転3和音を含むカデンツ	59 -	95 -	131 -
24 課題実習	60 -	96 -	132 -
25 3和音第2転回形の定型	61 -	97 -	133 -
26 課題実習	62 -	98 -	134 -
27 課題実習	63 -	99 -	135 -
28 V7の和音 → Iの和音への連結	64 -	100 -	136 -
29 課題実習	65 -	101 -	137 -
30 課題実習	66 -	102 -	138 -
31 先行和音 → V7の和音への連結	67 -	103 -	139 -
32 課題実習	68 -	104 -	140 -
33 課題実習	69 -	105 -	141 -
34 課題実習	70 -	106 -	142 -
35 授業内試験	71 -	107 -	143 -
36 後期まとめ	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

音楽史Ⅲ

授業形態	講義	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員		実務内容	
授業内容	時代による演奏方法の違いや使用楽器の違い、又同じ時代にあっても国によつての演奏方法の違いを理解する。		
到達目標	音楽史Ⅱで学んだ内容を、より深く学び高度な知識を身に付け演奏や仕事に役立てることを目標とする。		
教材	大人の音楽史入門(ヤマハミュージックメディア) プリント教材		

年間授業計画

1 20世紀音楽の始まりとその背景	37 -	73 -	109 -
2 印象主義音楽:ドビュッシー	38 -	74 -	110 -
3 ドビュッシー 交響詩「海」鑑賞	39 -	75 -	111 -
4 ラヴェルとその他の作曲家	40 -	76 -	112 -
5 その後のロシア:グラスノフ、ラフマニノフほか	41 -	77 -	113 -
6 ストラヴィンスキーの音楽	42 -	78 -	114 -
7 ストラヴィンスキー バレエ「春の祭典」鑑賞	43 -	79 -	115 -
8 12音音楽:シェーンベルクとその弟子たち	44 -	80 -	116 -
9 第一次世界大戦以後のフランス音楽:フランス6人組ほか①	45 -	81 -	117 -
10 第一次世界大戦以後のフランス音楽:フランス6人組ほか②	46 -	82 -	118 -
11 20世紀のドイツ・オーストリアの音楽	47 -	83 -	119 -
12 20世紀のソヴィエト音楽	48 -	84 -	120 -
13 ハンガリー:バルトークほか	49 -	85 -	121 -
14 20世紀のイタリア音楽、その他のヨーロッパ諸国	50 -	86 -	122 -
15 アメリカ音楽の流れ	51 -	87 -	123 -
16 前衛的な音楽	52 -	88 -	124 -
17 前期試験準備	53 -	89 -	125 -
18 前期試験	54 -	90 -	126 -
19 前期試験解答	55 -	91 -	127 -
20 楽器学から見る音楽史(1)楽器のはじまりと人々の音楽との関わり	56 -	92 -	128 -
21 楽器学から見る音楽史(2)弦楽器①	57 -	93 -	129 -
22 楽器学から見る音楽史(3)弦楽器②	58 -	94 -	130 -
23 楽器学から見る音楽史(4)管楽器	59 -	95 -	131 -
24 楽器学から見る音楽史(5)木管楽器:エアリード属	60 -	96 -	132 -
25 楽器学から見る音楽史(6)木管楽器:ダブルリード属	61 -	97 -	133 -
26 楽器学から見る音楽史(7)木管楽器:シングルリード属	62 -	98 -	134 -
27 楽器学から見る音楽史(8)金管楽器①	63 -	99 -	135 -
28 楽器学から見る音楽史(9)金管楽器②	64 -	100 -	136 -
29 楽器学から見る音楽史(10)打楽器	65 -	101 -	137 -
30 楽器学から見る音楽史(11)鍵盤楽器①	66 -	102 -	138 -
31 楽器学から見る音楽史(12)鍵盤楽器②	67 -	103 -	139 -
32 楽器学から見る音楽史(13)その他の楽器	68 -	104 -	140 -
33 後期試験準備1	69 -	105 -	141 -
34 後期試験準備2	70 -	106 -	142 -
35 後期試験	71 -	107 -	143 -
36 まとめ	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

木管修理講義Ⅲ

授業形態	講義	年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員		実務内容	
授業内容	特殊修理方法を理解する。		
到達目標	木管修理講義Ⅱで学んだ事を応用・発展させ、より高度な方法や理論を理解する事を目標とする		
教材	新しい楽器学と演奏法(ヤマハ株式会社) プリント教材		

年間授業計画

1 クラリネット各部名称・構造について	37 各部名称・構造について	73 -	109 -
2 クラリネット歴史	38 サックス分解・組立技術講義	74 -	110 -
3 クラリネット分解組立技術講義	39 サックスの歴史について	75 -	111 -
4 タンポ交換技術講義	40 タンポ交換技術講義	76 -	112 -
5 クラリネットタンポの種類と特長	41 各メーカーについて	77 -	113 -
6 管体材質の種類と特長	42 調整工具について	78 -	114 -
7 タンポ調整技術講義	43 タンポ調整技術講義	79 -	115 -
8 リングキィ高さ調整(キィ曲げ修正について)	44 サックス奏者について	80 -	116 -
9 キィコルクの役割について	45 キィフェルト・コルクの役割について	81 -	117 -
10 クラリネット音域について	46 キィフェルト・コルク交換	82 -	118 -
11 下管連動調整について	47 連動調整技術講義	83 -	119 -
12 連動調整技術講義	48 開き調整技術講義	84 -	120 -
13 ガタ・アソビ調整技術講義	49 特殊工具について	85 -	121 -
14 ジョイントコルク交換	50 ガタ・アソビ調整技術講義	86 -	122 -
15 試奏、レジスターキィタンポ	51 ネットコルク交換	87 -	123 -
16 最終調整・確認	52 最終調整・確認	88 -	124 -
17 クラリネット修理技術確認テスト	53 試奏について	89 -	125 -
18 クラリネットまとめ	54 サックスまとめ・テスト	90 -	126 -
19 フルート各部名称・構造について	55 ピッコロ各部名称・構造	91 -	127 -
20 フルート基本構造	56 ピッコロ分解・組立技術講義	92 -	128 -
21 フルート歴史	57 ピッコロタンポ交換技術講義	93 -	129 -
22 フルート分解組立技術講義	58 ピッコロ連動調整技術講義	94 -	130 -
23 タンポ交換技術講義	59 ピッコロ開き調整・アソビ調整技術講義	95 -	131 -
24 フルートタンポの種類と特長	60 試奏	96 -	132 -
25 フルート基本構造2(構造バリエーション)	61 オーボエ各部名称・構造	97 -	133 -
26 タンポ調整技術講義	62 オーボエ分解・組立技術講義	98 -	134 -
27 管体材質の種類と特長	63 オーボエタンポ交換技術講義	99 -	135 -
28 キィ・コルク・フェルトの役割について	64 オーボエ連動調整技術講義	100 -	136 -
29 連動調整技術講義	65 オーボエ開き調整・アソビ調整技術講義	101 -	137 -
30 キィ開き・アソビ調整技術講義	66 試奏	102 -	138 -
31 頭部管について・ヘッドコルク交換方法	67 ファゴット各部名称・構造	103 -	139 -
32 ジョイント部勘合調整	68 ファゴット分解・組立技術講義	104 -	140 -
33 試奏	69 ファゴットタンポ交換技術講義	105 -	141 -
34 最終調整・確認	70 ファゴット連動調整技術講義	106 -	142 -
35 フルート修理技術確認テスト	71 ファゴット開き調整・アソビ調整技術講義	107 -	143 -
36 フルートまとめ	72 試奏	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない

金管修理講義Ⅲ

授業形態	講義	年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員		実務内容	
授業内容	特殊な修理方法を理解する。		
到達目標	金管修理講義Ⅱで学んだ事を応用・発展させ、より高度な修理方法や理論を理解する事を目標とする。		
教材	新しい楽器学と演奏法(ヤマハ株式会社) プリント教材		

年間授業計画

1 工具：鋸・鋸	37 トロンボーン歴史、構造	73 -	109 -
2 真鍮加工技術	38 "	74 -	110 -
3 素材：金属基礎	39 "	75 -	111 -
4 "	40 確認テスト	76 -	112 -
5 ハンダ付技術講義1	41 ユーフォニアム・テューバ歴史、構造	77 -	113 -
6 "	42 "	78 -	114 -
7 工具：ドライバー・ネジについて	43 "	79 -	115 -
8 "	44 確認テスト	80 -	116 -
9 素材：銅合金	45 管楽器専門用語	81 -	117 -
10 ハンダ付技術講義2	46 "	82 -	118 -
11 "	47 "	83 -	119 -
12 工具：工作機械	48 確認テスト	84 -	120 -
13 "	49 管楽器演奏者について	85 -	121 -
14 "	50 "	86 -	122 -
15 素材：金銀・表面処理について	51 "	87 -	123 -
16 "	52 確認テスト	88 -	124 -
17 "	53 管楽器製作者について	89 -	125 -
18 ハンダ付技術講義3	54 "	90 -	126 -
19 "	55 "	91 -	127 -
20 "	56 "	92 -	128 -
21 工具：きさげ・その他工具加工	57 作曲家について	93 -	129 -
22 "	58 "	94 -	130 -
23 "	59 "	95 -	131 -
24 管楽器における研磨剤、研磨方法・接着剤、接着方法	60 確認テスト	96 -	132 -
25 素材：鉄鋼材料・熱処理	61 ロウ付技術講義	97 -	133 -
26 "	62 "	98 -	134 -
27 ハンダ付技術講義4	63 "	99 -	135 -
28 "	64 管体穴あき修正技術講義	100 -	136 -
29 "	65 "	101 -	137 -
30 トランペット歴史、構造	66 "	102 -	138 -
31 "	67 ネジ加工技術講義	103 -	139 -
32 確認テスト	68 "	104 -	140 -
33 ホルン歴史、構造	69 機械加工技術講義	105 -	141 -
34 "	70 "	106 -	142 -
35 "	71 まとめ	107 -	143 -
36 確認テスト	72 確認テスト	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

リペアゼミⅢ

授業形態	講義	年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員		実務内容	
授業内容	各修理で使用する工具・大型機械を使用し特殊工具・パーツ等の製作を行う。		
到達目標	リペアゼミⅠ及びⅡで学んだ内容を発展させ楽器修理専用工具や大型機械の更なる知識や使用技術を身に付けるを目標とする。		
教材	プリント教材 各種工具・大型機械		

年間授業計画

1 講義：ピストン調整1	37 講義：抜差管調整1	73 -	109 -
2 "	38 "	74 -	110 -
3 "	39 "	75 -	111 -
4 講義：ピストン調整2	40 講義：抜差管調整2	76 -	112 -
5 "	41 "	77 -	113 -
6 "	42 "	78 -	114 -
7 講義：ピストン調整3	43 講義：抜差管調整3	79 -	115 -
8 "	44 "	80 -	116 -
9 講義：ピストン調整4	45 講義：抜差管調整4	81 -	117 -
10 "	46 "	82 -	118 -
11 講義：ピストン調整5	47 講義：抜差管調整5	83 -	119 -
12 "	48 "	84 -	120 -
13 講義：ピストン調整6	49 講義：抜差管調整6	85 -	121 -
14 "	50 "	86 -	122 -
15 講義：ピストン調整7	51 講義：抜差管調整7	87 -	123 -
16 "	52 "	88 -	124 -
17 まとめ	53 まとめ	89 -	125 -
18 テスト	54 テスト	90 -	126 -
19 講義：ロータリー調整1	55 講義：スライド調整1	91 -	127 -
20 "	56 "	92 -	128 -
21 "	57 "	93 -	129 -
22 講義：ロータリー調整2	58 講義：スライド調整2	94 -	130 -
23 "	59 "	95 -	131 -
24 "	60 "	96 -	132 -
25 講義：ロータリー調整3	61 講義：スライド調整3	97 -	133 -
26 "	62 "	98 -	134 -
27 講義：ロータリー調整4	63 講義：スライド調整4	99 -	135 -
28 "	64 "	100 -	136 -
29 講義：ロータリー調整5	65 講義：スライド調整5	101 -	137 -
30 "	66 "	102 -	138 -
31 講義：ロータリー調整6	67 講義：スライド調整6	103 -	139 -
32 "	68 "	104 -	140 -
33 講義：ロータリー調整7	69 講義：スライド調整7	105 -	141 -
34 "	70 "	106 -	142 -
35 まとめ	71 まとめ	107 -	143 -
36 テスト	72 テスト	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

実践指揮法Ⅲ

授業形態		演習	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員	○	実務内容	吹奏楽団・管弦楽団等で多くの楽曲の指揮経験のある教員による授業	
授業内容	指揮者として実際にバンドの指揮を振り、表現方法の指示を明確に出来るようにする。			
到達目標	実践指揮法Ⅱで学んだ事を応用し、より高度な指揮法を身に付ける事を目標とする。			
教材	各種楽曲(吹奏楽譜、オーケストラ譜など)			

年間授業計画

1 指揮の基本姿勢	37 -		73 -		109 -
2 指揮棒の持ち方	38 -		74 -		110 -
3 スコアの見方1	39 -		75 -		111 -
4 スコアの見方2と2拍子の基本図形	40 -		76 -		112 -
5 3拍子の基本図形	41 -		77 -		113 -
6 4拍子の基本図形	42 -		78 -		114 -
7 2拍子の作品で実習	43 -		79 -		115 -
8 2拍子の作品で実習	44 -		80 -		116 -
9 3拍子の作品で実習	45 -		81 -		117 -
10 3拍子の作品で実習	46 -		82 -		118 -
11 4拍子の作品で実習	47 -		83 -		119 -
12 4拍子の作品で実習	48 -		84 -		120 -
13 定期演奏会の作品を使用して実習	49 -		85 -		121 -
14 定期演奏会の作品を使用して実習	50 -		86 -		122 -
15 定期演奏会の作品を使用して実習	51 -		87 -		123 -
16 定期演奏会の作品を使用して実習	52 -		88 -		124 -
17 定期演奏会の作品を使用して実習	53 -		89 -		125 -
18 定期演奏会の作品を使用して実習	54 -		90 -		126 -
19 定期演奏会の作品を使用して実習	55 -		91 -		127 -
20 定期演奏会の作品を使用して実習	56 -		92 -		128 -
21 定期演奏会の作品を使用して実習	57 -		93 -		129 -
22 定期演奏会の作品を使用して実習	58 -		94 -		130 -
23 複合拍子の指揮法	59 -		95 -		131 -
24 混合拍子の指揮法	60 -		96 -		132 -
25 変拍子の指揮法1	61 -		97 -		133 -
26 変拍子の指揮法2	62 -		98 -		134 -
27 変拍子の指揮法3	63 -		99 -		135 -
28 フィルマータの指揮1	64 -		100 -		136 -
29 フィルマータの指揮2	65 -		101 -		137 -
30 変拍子の指揮法1	66 -		102 -		138 -
31 定期演奏会の作品を使用して実習	67 -		103 -		139 -
32 定期演奏会の作品を使用して実習	68 -		104 -		140 -
33 定期演奏会の作品を使用して実習	69 -		105 -		141 -
34 定期演奏会の作品を使用して実習	70 -		106 -		142 -
35 定期演奏会の作品を使用して実習	71 -		107 -		143 -
36 定期演奏会の作品を使用して実習	72 -		108 -		144 -

成績評価方法

評価対象	出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○				
筆記試験		A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60
実技試験	○	E評価 59～ 成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

吹奏楽基礎演習Ⅲ

授業形態		演習	年間授業時間数	36時間	
実務経験のある教員	○	実務内容	吹奏楽団・管弦楽団等で多くの楽曲の演奏経験のある教員による授業		
授業内容	コーラルやコンコーネを使用し、ハーモニーやバランスを自分で判断できるようにする。また合奏内での自分の役割を瞬時に判断できるようにする。				
到達目標	同調の楽器だけでなく様々な調の楽器とのユニゾンの合わせ方やハーモニーの鳴らし方、バランスの取り方等を習得し基本的な合奏能力の向上を目標とする。				
教材	吹奏楽のためのコンコーネ 50(ティーダ出版)・合唱曲集				

年間授業計画

1 スケール(以下S)とデンフラージュ(以下D)	37 -	73 -	109 -
2 SとD	38 -	74 -	110 -
3 SとD	39 -	75 -	111 -
4 Sとハーモニー(以下H)とD	40 -	76 -	112 -
5 SとHとD	41 -	77 -	113 -
6 SとHとD	42 -	78 -	114 -
7 SとHとD	43 -	79 -	115 -
8 SとHとD	44 -	80 -	116 -
9 SとHとD	45 -	81 -	117 -
10 SとHとD	46 -	82 -	118 -
11 SとHとD	47 -	83 -	119 -
12 SとHとD	48 -	84 -	120 -
13 SとHとD	49 -	85 -	121 -
14 SとHとD	50 -	86 -	122 -
15 SとHとD	51 -	87 -	123 -
16 SとHとD	52 -	88 -	124 -
17 SとHとD	53 -	89 -	125 -
18 SとHとD	54 -	90 -	126 -
19 SとHとD	55 -	91 -	127 -
20 SとHとD	56 -	92 -	128 -
21 SとHとD	57 -	93 -	129 -
22 SとHとD	58 -	94 -	130 -
23 SとHとD	59 -	95 -	131 -
24 SとHとD	60 -	96 -	132 -
25 SとHとD	61 -	97 -	133 -
26 SとHとD	62 -	98 -	134 -
27 SとHとD	63 -	99 -	135 -
28 SとHとD	64 -	100 -	136 -
29 SとHとD	65 -	101 -	137 -
30 SとHとD	66 -	102 -	138 -
31 SとHとD	67 -	103 -	139 -
32 SとHとD	68 -	104 -	140 -
33 SとHとD	69 -	105 -	141 -
34 SとHとD	70 -	106 -	142 -
35 SとHとD	71 -	107 -	143 -
36 SとHとD	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない

吹奏楽演習Ⅲ

授業形態		演習	年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	吹奏楽団・管楽アンサンブル等で多くの楽曲の指揮経験のある教員による授業	
授業内容	ジャンルを問わず様々な楽曲を演奏し、一つのバンドとしてまとまった演奏を各自考えて行えるようにする。			
到達目標	合奏を通じて多様なジャンルの楽曲について学び理解を深める。多様なジャンルの合奏能力の向上を目標とする。			
教材	各種楽曲(吹奏楽譜、オーケストラ譜など)			

年間授業計画

1 各国のマーチと初見合奏	37 合奏(定期演奏会)	73 コラールと初見合奏	109 -
2 "	38 "	74 "	110 -
3 "	39 "	75 "	111 -
4 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	40 合奏(定期演奏会)	76 コラールと前回の作品を使用した合奏	112 -
5 "	41 "	77 "	113 -
6 "	42 "	78 "	114 -
7 各国のマーチと初見合奏	43 合奏(定期演奏会)	79 コラールと初見合奏	115 -
8 "	44 "	80 "	116 -
9 "	45 "	81 "	117 -
10 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	46 合奏(定期演奏会)	82 コラールと前回の作品を使用した合奏	118 -
11 "	47 "	83 "	119 -
12 "	48 "	84 "	120 -
13 各国のマーチと初見合奏	49 合奏(定期演奏会)	85 コラールと初見合奏	121 -
14 "	50 "	86 "	122 -
15 "	51 "	87 "	123 -
16 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	52 合奏(定期演奏会)	88 コラールと前回の作品を使用した合奏	124 -
17 "	53 "	89 "	125 -
18 "	54 "	90 "	126 -
19 各国のマーチと初見合奏	55 合奏(定期演奏会)	91 合奏(定期演奏会)	127 -
20 "	56 "	92 "	128 -
21 "	57 "	93 "	129 -
22 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	58 合奏(定期演奏会)	94 合奏(定期演奏会)	130 -
23 "	59 "	95 "	131 -
24 "	60 "	96 "	132 -
25 各国のマーチと初見合奏	61 合奏(定期演奏会)	97 合奏(定期演奏会)	133 -
26 "	62 "	98 "	134 -
27 "	63 "	99 "	135 -
28 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	64 合奏(定期演奏会)	100 合奏(定期演奏会)	136 -
29 "	65 "	101 "	137 -
30 "	66 "	102 "	138 -
31 各国のマーチと初見合奏	67 コラールと初見合奏	103 合奏(定期演奏会)	139 -
32 "	68 "	104 "	140 -
33 "	69 "	105 "	141 -
34 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	70 コラールと前回の作品を使用した合奏	106 合奏(定期演奏会)	142 -
35 "	71 "	107 "	143 -
36 "	72 "	108 "	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率と定期演奏会(当日・集中練習と合宿)の出席率の合算によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない

吹奏楽指導法Ⅲ

授業形態	実習	年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	中高等学校や大学で吹奏楽・管弦楽等の指導者としての実務経験のある教員による授
授業内容	曲による演奏法の違いを実践し、異なった時代による演奏様式などの指導法を身につける。		
到達目標	合奏を通じて吹奏楽基礎演習や吹奏楽演習で学んでいる内容を、指導者として各パートに指示できる指導法を身につける事が目標。		
教材	各種楽曲(吹奏楽譜、オーケストラ譜など)		

年間授業計画

1 合奏内での個別指導	37 合奏内での個別指導	73 合奏内での個別指導	109 -
2 "	38 "	74 "	110 -
3 "	39 "	75 "	111 -
4 "	40 "	76 "	112 -
5 "	41 "	77 "	113 -
6 "	42 "	78 "	114 -
7 "	43 "	79 "	115 -
8 "	44 "	80 "	116 -
9 "	45 "	81 "	117 -
10 "	46 "	82 "	118 -
11 "	47 "	83 "	119 -
12 "	48 "	84 "	120 -
13 "	49 "	85 "	121 -
14 "	50 "	86 "	122 -
15 "	51 "	87 "	123 -
16 "	52 "	88 "	124 -
17 "	53 "	89 "	125 -
18 "	54 "	90 "	126 -
19 "	55 "	91 "	127 -
20 "	56 "	92 "	128 -
21 "	57 "	93 "	129 -
22 "	58 "	94 "	130 -
23 "	59 "	95 "	131 -
24 "	60 "	96 "	132 -
25 "	61 "	97 "	133 -
26 "	62 "	98 "	134 -
27 "	63 "	99 "	135 -
28 "	64 "	100 "	136 -
29 "	65 "	101 "	137 -
30 "	66 "	102 "	138 -
31 "	67 "	103 "	139 -
32 "	68 "	104 "	140 -
33 "	69 "	105 "	141 -
34 "	70 "	106 "	142 -
35 "	71 "	107 "	143 -
36 "	72 "	108 "	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする				
出席	○				
筆記試験	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
実技試験	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

演奏実習Ⅲ(管楽器リペアコース)

授業形態	実習	年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員		実務内容	
授業内容	演奏技術向上と様々な練習方法を身につける。		
到達目標	演奏実習Ⅰで学んだ内容を応用・発展させ更に高いレベルの演奏技術を身に着ける事を目標とする。		
教材	各楽器指定教則本(50のエチュード/ラクール<サクソ>、アーバン金管教則本<トランペット>)など		

年間授業計画

1 グループ指導・演習	37 グループ指導・演習	73 -	109 -
2 "	38 "	74 -	110 -
3 "	39 "	75 -	111 -
4 "	40 "	76 -	112 -
5 "	41 "	77 -	113 -
6 "	42 "	78 -	114 -
7 "	43 "	79 -	115 -
8 "	44 "	80 -	116 -
9 "	45 "	81 -	117 -
10 "	46 "	82 -	118 -
11 "	47 "	83 -	119 -
12 "	48 "	84 -	120 -
13 "	49 "	85 -	121 -
14 "	50 "	86 -	122 -
15 "	51 "	87 -	123 -
16 "	52 "	88 -	124 -
17 "	53 "	89 -	125 -
18 "	54 "	90 -	126 -
19 "	55 "	91 -	127 -
20 "	56 "	92 -	128 -
21 "	57 "	93 -	129 -
22 "	58 "	94 -	130 -
23 "	59 "	95 -	131 -
24 "	60 "	96 -	132 -
25 "	61 "	97 -	133 -
26 "	62 "	98 -	134 -
27 "	63 "	99 -	135 -
28 "	64 "	100 -	136 -
29 "	65 "	101 -	137 -
30 "	66 "	102 -	138 -
31 "	67 "	103 -	139 -
32 "	68 "	104 -	140 -
33 "	69 "	105 -	141 -
34 "	70 "	106 -	142 -
35 "	71 "	107 -	143 -
36 "	72 "	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

デイリートレーニングⅢ

授業形態	演習	年間授業時間数	72時間
------	----	---------	------

実務経験のある教員		実務内容	
-----------	--	------	--

授業内容	さまざまなバリエーションで音階練習をおこない、演奏するための基礎体力向上をはかる。
------	---

到達目標	基礎練習を毎日行い演奏するための体力を身につける事を目的とする。
------	----------------------------------

教材	各楽器指定教則本(50のエチュード/ラクール〈サクソ〉、アーバン金管教則本〈トランペット〉など)
----	--

年間授業計画

1 基礎練習	37 基礎練習	73 -	109 -
2 "	38 "	74 -	110 -
3 "	39 "	75 -	111 -
4 "	40 "	76 -	112 -
5 "	41 "	77 -	113 -
6 "	42 "	78 -	114 -
7 "	43 "	79 -	115 -
8 "	44 "	80 -	116 -
9 "	45 "	81 -	117 -
10 "	46 "	82 -	118 -
11 "	47 "	83 -	119 -
12 "	48 "	84 -	120 -
13 "	49 "	85 -	121 -
14 "	50 "	86 -	122 -
15 "	51 "	87 -	123 -
16 "	52 "	88 -	124 -
17 "	53 "	89 -	125 -
18 "	54 "	90 -	126 -
19 "	55 "	91 -	127 -
20 "	56 "	92 -	128 -
21 "	57 "	93 -	129 -
22 "	58 "	94 -	130 -
23 "	59 "	95 -	131 -
24 "	60 "	96 -	132 -
25 "	61 "	97 -	133 -
26 "	62 "	98 -	134 -
27 "	63 "	99 -	135 -
28 "	64 "	100 -	136 -
29 "	65 "	101 -	137 -
30 "	66 "	102 -	138 -
31 "	67 "	103 -	139 -
32 "	68 "	104 -	140 -
33 "	69 "	105 -	141 -
34 "	70 "	106 -	142 -
35 "	71 "	107 -	143 -
36 "	72 "	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

クラリネット修理Ⅱ

授業形態		演習	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員	○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業	
授業内容	オーバーホール(全パーツ交換及び調整)を行う事で、様々な修理内容や、プロのプレイヤーの要望に対応できるよう修理技術を学ぶ			
到達目標	クラリネットの修理技術を更に向上させる事が目標			
教材	実習用楽器			

年間授業計画

1 タンポ交換・調整	37 -	73 -	109 -
2 "	38 -	74 -	110 -
3 "	39 -	75 -	111 -
4 "	40 -	76 -	112 -
5 "	41 -	77 -	113 -
6 "	42 -	78 -	114 -
7 リングキィ高さ調整 (キィ曲げ修正について)	43 -	79 -	115 -
8 "	44 -	80 -	116 -
9 キィコルク交換・開き調整①	45 -	81 -	117 -
10 "	46 -	82 -	118 -
11 "	47 -	83 -	119 -
12 "	48 -	84 -	120 -
13 "	49 -	85 -	121 -
14 "	50 -	86 -	122 -
15 上下管リングキィ連動調整	51 -	87 -	123 -
16 "	52 -	88 -	124 -
17 LowF/Cキィー E/Bキィ連動調整	53 -	89 -	125 -
18 "	54 -	90 -	126 -
19 キィコルク交換・開き調整②	55 -	91 -	127 -
20 "	56 -	92 -	128 -
21 "	57 -	93 -	129 -
22 "	58 -	94 -	130 -
23 ガタ・アソビ調整	59 -	95 -	131 -
24 "	60 -	96 -	132 -
25 "	61 -	97 -	133 -
26 "	62 -	98 -	134 -
27 ジョイントコルク交換	63 -	99 -	135 -
28 "	64 -	100 -	136 -
29 試奏、レジスターキィタンポ交換	65 -	101 -	137 -
30 "	66 -	102 -	138 -
31 最終調整・確認	67 -	103 -	139 -
32 "	68 -	104 -	140 -
33 "	69 -	105 -	141 -
34 授業内試験	70 -	106 -	142 -
35 クラリネットまとめ	71 -	107 -	143 -
36 "	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

フルート修理Ⅱ

授業形態		演習	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員	○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業	
授業内容	オーバーホール(全パーツ交換及び調整)を行う事で、様々な修理内容や、プロのプレイヤーの要望に対応できるよう修理技術を学ぶ			
到達目標	フルートの修理技術を更に向上させる事が目標			
教材	実習用楽器			

年間授業計画

1 フルート分解組立	37 -	73 -	109 -
2 タンポ交換・調整	38 -	74 -	110 -
3 "	39 -	75 -	111 -
4 "	40 -	76 -	112 -
5 "	41 -	77 -	113 -
6 "	42 -	78 -	114 -
7 "	43 -	79 -	115 -
8 "	44 -	80 -	116 -
9 "	45 -	81 -	117 -
10 "	46 -	82 -	118 -
11 "	47 -	83 -	119 -
12 "	48 -	84 -	120 -
13 タンポ交換・調整見直し	49 -	85 -	121 -
14 "	50 -	86 -	122 -
15 "	51 -	87 -	123 -
16 "	52 -	88 -	124 -
17 "	53 -	89 -	125 -
18 "	54 -	90 -	126 -
19 連動調整	55 -	91 -	127 -
20 "	56 -	92 -	128 -
21 "	57 -	93 -	129 -
22 "	58 -	94 -	130 -
23 "	59 -	95 -	131 -
24 "	60 -	96 -	132 -
25 "	61 -	97 -	133 -
26 キイフェルト・コルク交換調整	62 -	98 -	134 -
27 "	63 -	99 -	135 -
28 "	64 -	100 -	136 -
29 "	65 -	101 -	137 -
30 "	66 -	102 -	138 -
31 "	67 -	103 -	139 -
32 ヘッドコルク交換・調整	68 -	104 -	140 -
33 試奏	69 -	105 -	141 -
34 最終調整	70 -	106 -	142 -
35 授業内試験	71 -	107 -	143 -
36 フルートまとめ	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

サックス修理Ⅱ

授業形態		演習	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員	○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業	
授業内容	オーバーホール(全パーツ交換及び調整)を行う事で、様々な修理内容や、プロのプレイヤーの要望に対応できるよう修理技術を学ぶ			
到達目標	サックスの修理技術を更に向上させる事が目標			
教材	実習用楽器			

年間授業計画

1 サックス分解組立	37 -	73 -	109 -
2 "	38 -	74 -	110 -
3 タンポ交換・調整	39 -	75 -	111 -
4 "	40 -	76 -	112 -
5 "	41 -	77 -	113 -
6 "	42 -	78 -	114 -
7 "	43 -	79 -	115 -
8 "	44 -	80 -	116 -
9 "	45 -	81 -	117 -
10 タンポ交換・調整見直し	46 -	82 -	118 -
11 "	47 -	83 -	119 -
12 "	48 -	84 -	120 -
13 "	49 -	85 -	121 -
14 連動調整	50 -	86 -	122 -
15 "	51 -	87 -	123 -
16 "	52 -	88 -	124 -
17 "	53 -	89 -	125 -
18 "	54 -	90 -	126 -
19 "	55 -	91 -	127 -
20 開き調整	56 -	92 -	128 -
21 "	57 -	93 -	129 -
22 "	58 -	94 -	130 -
23 "	59 -	95 -	131 -
24 ガタ・アソビ調整	60 -	96 -	132 -
25 "	61 -	97 -	133 -
26 "	62 -	98 -	134 -
27 "	63 -	99 -	135 -
28 "	64 -	100 -	136 -
29 ネットコルク交換	65 -	101 -	137 -
30 "	66 -	102 -	138 -
31 最終調整	67 -	103 -	139 -
32 "	68 -	104 -	140 -
33 試奏	69 -	105 -	141 -
34 "	70 -	106 -	142 -
35 授業内試験	71 -	107 -	143 -
36 サックスまとめ	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

木管応用修理Ⅱ

授業形態		実習	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員	○	実務内容	楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業	
授業内容	各自で修理内容に適した修理方法を判断しそれを正確に行う。			
到達目標	各楽器(クラリネット・フルート・サクソ)の修理技術を応用し、特殊な修理内容に対する技術を更に向上させる事を目標とする。			
教材	実習用楽器			

年間授業計画

1 木管楽器応用・実践修理	37 -	73 -	109 -
2 "	38 -	74 -	110 -
3 "	39 -	75 -	111 -
4 "	40 -	76 -	112 -
5 "	41 -	77 -	113 -
6 "	42 -	78 -	114 -
7 "	43 -	79 -	115 -
8 "	44 -	80 -	116 -
9 "	45 -	81 -	117 -
10 "	46 -	82 -	118 -
11 "	47 -	83 -	119 -
12 "	48 -	84 -	120 -
13 "	49 -	85 -	121 -
14 "	50 -	86 -	122 -
15 "	51 -	87 -	123 -
16 "	52 -	88 -	124 -
17 "	53 -	89 -	125 -
18 "	54 -	90 -	126 -
19 "	55 -	91 -	127 -
20 "	56 -	92 -	128 -
21 "	57 -	93 -	129 -
22 "	58 -	94 -	130 -
23 "	59 -	95 -	131 -
24 "	60 -	96 -	132 -
25 "	61 -	97 -	133 -
26 "	62 -	98 -	134 -
27 "	63 -	99 -	135 -
28 "	64 -	100 -	136 -
29 "	65 -	101 -	137 -
30 "	66 -	102 -	138 -
31 "	67 -	103 -	139 -
32 "	68 -	104 -	140 -
33 "	69 -	105 -	141 -
34 "	70 -	106 -	142 -
35 "	71 -	107 -	143 -
36 "	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

金管修理(溶接)Ⅱ

授業形態		演習	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員	○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業	
授業内容	各楽器、様々な箇所の溶接を実習し様々な修理内容や、プロのプレイヤーの要望に対応できるよう修理技術を身に付ける。			
到達目標	溶接の技術をさらに向上をさせる事を目標とする。			
教材	実習用楽器			

年間授業計画

1 真鍮板加工1	37 -	73 -	109 -
2 //	38 -	74 -	110 -
3 真鍮板加工2	39 -	75 -	111 -
4 //	40 -	76 -	112 -
5 //	41 -	77 -	113 -
6 真鍮板ハンダ付1	42 -	78 -	114 -
7 //	43 -	79 -	115 -
8 真鍮板ハンダ付2	44 -	80 -	116 -
9 //	45 -	81 -	117 -
10 トランペットハンダ付1	46 -	82 -	118 -
11 //	47 -	83 -	119 -
12 トランペットハンダ付2	48 -	84 -	120 -
13 //	49 -	85 -	121 -
14 ホルンハンダ付1	50 -	86 -	122 -
15 //	51 -	87 -	123 -
16 ホルンハンダ付2	52 -	88 -	124 -
17 //	53 -	89 -	125 -
18 ユーフォニアム・チューバハンダ付1	54 -	90 -	126 -
19 //	55 -	91 -	127 -
20 ユーフォニアム・チューバハンダ付2	56 -	92 -	128 -
21 //	57 -	93 -	129 -
22 サックスハンダ付1	58 -	94 -	130 -
23 //	59 -	95 -	131 -
24 サックスハンダ付2	60 -	96 -	132 -
25 //	61 -	97 -	133 -
26 フルートハンダ付1	62 -	98 -	134 -
27 //	63 -	99 -	135 -
28 フルートハンダ付2	64 -	100 -	136 -
29 //	65 -	101 -	137 -
30 トロンボーンハンダ付1	66 -	102 -	138 -
31 //	67 -	103 -	139 -
32 トロンボーンハンダ付2	68 -	104 -	140 -
33 //	69 -	105 -	141 -
34 まとめ	70 -	106 -	142 -
35 //	71 -	107 -	143 -
36 テスト	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～85	B評価 84～75	C評価 74～65	D評価 64～	E評価 未受験
筆記試験						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

金管修理(凹み)Ⅱ

授業形態		演習	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員	○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業	
授業内容	各楽器、様々な箇所凹みを実習し様々な修理内容や、プロのプレイヤーの要望に対応できるよう修理技術を身に付ける。			
到達目標	溶接の技術をさらに向上をさせる事を目標とする。			
教材	実習用楽器			

年間授業計画

1 凹み修理工具加工1	37 -	73 -	109 -
2 "	38 -	74 -	110 -
3 凹み修理工具加工2	39 -	75 -	111 -
4 "	40 -	76 -	112 -
5 トランペット凹み修正1	41 -	77 -	113 -
6 "	42 -	78 -	114 -
7 トランペット凹み修正2	43 -	79 -	115 -
8 "	44 -	80 -	116 -
9 トロンボーン凹み修正1	45 -	81 -	117 -
10 "	46 -	82 -	118 -
11 トロンボーン凹み修正2	47 -	83 -	119 -
12 "	48 -	84 -	120 -
13 ホルン凹み修正1	49 -	85 -	121 -
14 "	50 -	86 -	122 -
15 ホルン凹み修正2	51 -	87 -	123 -
16 "	52 -	88 -	124 -
17 ユーフォニアム・チューバ凹み修正1	53 -	89 -	125 -
18 "	54 -	90 -	126 -
19 "	55 -	91 -	127 -
20 ユーフォニアム・チューバ凹み修正2	56 -	92 -	128 -
21 "	57 -	93 -	129 -
22 サックス凹み修正1	58 -	94 -	130 -
23 "	59 -	95 -	131 -
24 サックス凹み修正2	60 -	96 -	132 -
25 "	61 -	97 -	133 -
26 フルート凹み修正1	62 -	98 -	134 -
27 "	63 -	99 -	135 -
28 フルート凹み修正2	64 -	100 -	136 -
29 "	65 -	101 -	137 -
30 抜差管凹み修正1	66 -	102 -	138 -
31 "	67 -	103 -	139 -
32 抜差管凹み修正2	68 -	104 -	140 -
33 "	69 -	105 -	141 -
34 まとめ	70 -	106 -	142 -
35 "	71 -	107 -	143 -
36 テスト	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

金管修理(可動部調整)Ⅱ

授業形態		演習	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員	○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業	
授業内容	各楽器、様々な可動部の修理を実習し様々な修理内容や、プロのプレイヤーの要望に対応できるよう修理技術を身に付ける。			
到達目標	可動部の修理技術をさらに向上をさせる事を目標とする。			
教材	実習用楽器			

年間授業計画

1 ピストン調整1	37 -	73 -	109 -
2 "	38 -	74 -	110 -
3 "	39 -	75 -	111 -
4 ピストン調整2	40 -	76 -	112 -
5 "	41 -	77 -	113 -
6 ピストン調整3	42 -	78 -	114 -
7 "	43 -	79 -	115 -
8 ピストン調整まとめ	44 -	80 -	116 -
9 "	45 -	81 -	117 -
10 ロータリー調整1	46 -	82 -	118 -
11 "	47 -	83 -	119 -
12 ロータリー調整2	48 -	84 -	120 -
13 "	49 -	85 -	121 -
14 ロータリー調整3	50 -	86 -	122 -
15 "	51 -	87 -	123 -
16 ロータリー調整まとめ	52 -	88 -	124 -
17 "	53 -	89 -	125 -
18 抜差管調整1	54 -	90 -	126 -
19 "	55 -	91 -	127 -
20 抜差管調整2	56 -	92 -	128 -
21 "	57 -	93 -	129 -
22 抜差管調整3	58 -	94 -	130 -
23 "	59 -	95 -	131 -
24 抜差管調整まとめ	60 -	96 -	132 -
25 "	61 -	97 -	133 -
26 スライド調整1	62 -	98 -	134 -
27 "	63 -	99 -	135 -
28 スライド調整2	64 -	100 -	136 -
29 "	65 -	101 -	137 -
30 スライド調整3	66 -	102 -	138 -
31 "	67 -	103 -	139 -
32 スライド調整まとめ	68 -	104 -	140 -
33 "	69 -	105 -	141 -
34 可動部調整まとめ	70 -	106 -	142 -
35 "	71 -	107 -	143 -
36 テスト	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

金管応用修理Ⅱ

授業形態		演習	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員	○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアラーとしての実務経験のある教員による授業	
授業内容	各自で修理内容に適した修理方法を判断しそれを行う。			
到達目標	溶接・凹み・可動部調整の修理技術を応用し、特殊な修理内容に対する技術を身につける事を目標とする。			
教材	実習用楽器			

年間授業計画

1 ロウ付1-1	37 -	73 -	109 -
2 "	38 -	74 -	110 -
3 ロウ付1-2	39 -	75 -	111 -
4 "	40 -	76 -	112 -
5 ロウ付2-1	41 -	77 -	113 -
6 "	42 -	78 -	114 -
7 ロウ付2-2	43 -	79 -	115 -
8 "	44 -	80 -	116 -
9 管体穴あき修正1-1	45 -	81 -	117 -
10 "	46 -	82 -	118 -
11 管体穴あき修正1-2	47 -	83 -	119 -
12 "	48 -	84 -	120 -
13 管体穴あき修正1-3	49 -	85 -	121 -
14 "	50 -	86 -	122 -
15 機械加工1-1	51 -	87 -	123 -
16 "	52 -	88 -	124 -
17 機械加工1-2	53 -	89 -	125 -
18 "	54 -	90 -	126 -
19 機械加工2-1	55 -	91 -	127 -
20 "	56 -	92 -	128 -
21 機械加工2-2	57 -	93 -	129 -
22 "	58 -	94 -	130 -
23 ネジ加工1-1	59 -	95 -	131 -
24 "	60 -	96 -	132 -
25 ネジ加工1-2	61 -	97 -	133 -
26 "	62 -	98 -	134 -
27 ネジ加工1-3	63 -	99 -	135 -
28 "	64 -	100 -	136 -
29 パーツ加工1-1	65 -	101 -	137 -
30 "	66 -	102 -	138 -
31 パーツ加工1-2	67 -	103 -	139 -
32 "	68 -	104 -	140 -
33 パーツ加工1-3	69 -	105 -	141 -
34 "	70 -	106 -	142 -
35 "	71 -	107 -	143 -
36 まとめ・テスト	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

リペア実習Ⅲ

授業形態	実習	年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	管楽器修理会社で管楽器リペアーとしての実務経験のある教員による授業
授業内容	実習をとおして楽器への理解・知識を深める。		
到達目標	高いレベルの修理を目指し、修理技術を更に向上させることを目標とする。		
教材	実習用楽器		

年間授業計画

1 技術習得度に合わせて個別指導	37 技術習得度に合わせて個別指導	73 技術習得度に合わせて個別指導	109 -
2 "	38 "	74 "	110 -
3 "	39 "	75 "	111 -
4 "	40 "	76 "	112 -
5 "	41 "	77 "	113 -
6 "	42 "	78 "	114 -
7 "	43 "	79 "	115 -
8 "	44 "	80 "	116 -
9 "	45 "	81 "	117 -
10 "	46 "	82 "	118 -
11 "	47 "	83 "	119 -
12 "	48 "	84 "	120 -
13 "	49 "	85 "	121 -
14 "	50 "	86 "	122 -
15 "	51 "	87 "	123 -
16 "	52 "	88 "	124 -
17 "	53 "	89 "	125 -
18 "	54 "	90 "	126 -
19 "	55 "	91 "	127 -
20 "	56 "	92 "	128 -
21 "	57 "	93 "	129 -
22 "	58 "	94 "	130 -
23 "	59 "	95 "	131 -
24 "	60 "	96 "	132 -
25 "	61 "	97 "	133 -
26 "	62 "	98 "	134 -
27 "	63 "	99 "	135 -
28 "	64 "	100 "	136 -
29 "	65 "	101 "	137 -
30 "	66 "	102 "	138 -
31 "	67 "	103 "	139 -
32 "	68 "	104 "	140 -
33 "	69 "	105 "	141 -
34 "	70 "	106 "	142 -
35 "	71 "	107 "	143 -
36 "	72 "	108 "	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
筆記試験					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

社会人基礎Ⅱ

授業形態	講義	年間授業時間数	18時間
実務経験のある教員		実務内容	
授業内容	社会人としての素養を身に付けるため、社会人としてのあり方などを学ぶ。		
到達目標	社会人としての素養を身に付ける。		
教材	自作プリント等		

年間授業計画

1 個別指導	37 -	73 -	109 -
2 "	38 -	74 -	110 -
3 "	39 -	75 -	111 -
4 "	40 -	76 -	112 -
5 "	41 -	77 -	113 -
6 "	42 -	78 -	114 -
7 "	43 -	79 -	115 -
8 "	44 -	80 -	116 -
9 "	45 -	81 -	117 -
10 "	46 -	82 -	118 -
11 "	47 -	83 -	119 -
12 "	48 -	84 -	120 -
13 "	49 -	85 -	121 -
14 "	50 -	86 -	122 -
15 "	51 -	87 -	123 -
16 "	52 -	88 -	124 -
17 "	53 -	89 -	125 -
18 "	54 -	90 -	126 -
19 -	55 -	91 -	127 -
20 -	56 -	92 -	128 -
21 -	57 -	93 -	129 -
22 -	58 -	94 -	130 -
23 -	59 -	95 -	131 -
24 -	60 -	96 -	132 -
25 -	61 -	97 -	133 -
26 -	62 -	98 -	134 -
27 -	63 -	99 -	135 -
28 -	64 -	100 -	136 -
29 -	65 -	101 -	137 -
30 -	66 -	102 -	138 -
31 -	67 -	103 -	139 -
32 -	68 -	104 -	140 -
33 -	69 -	105 -	141 -
34 -	70 -	106 -	142 -
35 -	71 -	107 -	143 -
36 -	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない